

もうしこみあんない

申込案内 (申込み期間 2025年9月30日 まで)

参加申込み方法(以下の①～③の方法でお申し込みください)

※保育並びに情報保障は事前申込が必要です。

① URL: <https://forms.gle/rYQSHGx4uEPY9ehq8>、または右のQRコードからお申込みいただけます。1人ずつお申し込みください。資料が不要な介助者についてはフォーム内で介助者の人数を入力してください。

② メール donokomo1987@yahoo.co.jp

③ FAX 048-942-7543 (タケサコ)

メール、FAXの場合は、①メールアドレス②名前、フリガナ③電話番号④郵便番号⑤住所⑥所属⑦参加方法(会場参加か、ZOOM参加か、会場参加の場合は介助者の人数も)⑧参加日程(全日程参加、1日目、2日目のみなど)⑨参加分科会⑩保育希望の有無(お子さんの名前、年齢、保育上の配慮事項等も)⑪情報保障の要否(必要な場合その内容)⑫懇親会参加希望(希望の場合は同行する介助者人数も)を記載してください。

資料代の振込先(*振り込みは、参加申込書提出後おおむね1週間以内でお願いします。)

※参加費(資料代)2日参加3,000円、1日のみ参加2,000円

会場参加、ZOOM参加は同額になります。資料不要の介助者と高校生以下は無料です。

金融機関 ゆうちょ銀行【店名】〇三八【店番】038 普通預金0837061 タケサコ カズコ

注意!!

申込期間終了後に申込を希望する場合、フォームでの受付は終了しますので、必ずメールでご連絡ください。ZOOM参加の場合、資料代の振込の確認が取れましたら、後日(11月20日までに)集会資料、IDとパスコードの送付をします。ご確認ください。会場の場合、資料代は当日現金でのお支払いとなります。

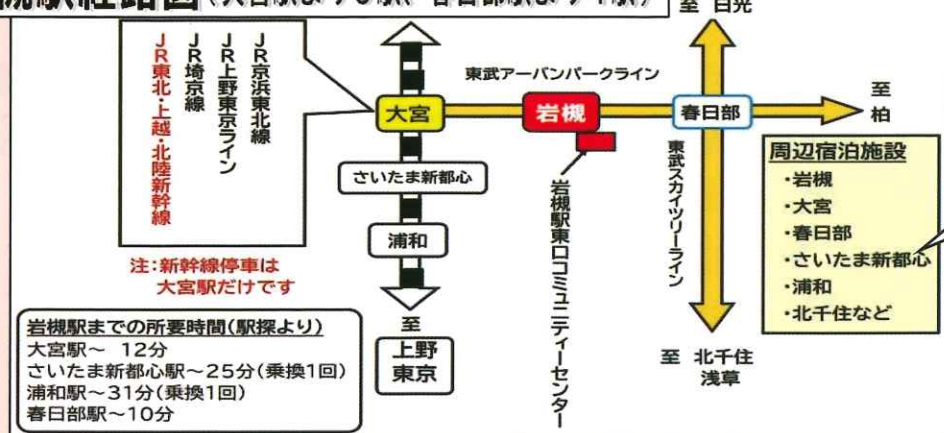
※懇親会について

中華台湾料理 雅致 本集会会場向かいのビル《11月22日 18:30~20:00》

会費:4,000円(介助者も同額)、小学生1,000円、小学生未満無料(集会当日受付にて現金で徴収)

*完全予約制 先着80名までです。上記参加申し込みの際に一緒に申し込んでください。定員になり次第締め切ります。

岩槻駅経路図(大宮駅より5駅、春日部駅より4駅)



しゅうくはくばしょ かくじ はや
宿泊場所は各自で早めにお探してください。

問い合わせ先 Email donokomo1987@yahoo.co.jp

090-4938-8689 (大坂) / 048-942-7543 (竹迫)

出会えないのはなぜ？

第22回 障害児を普通学校へ・全国連絡会

全国交流集会

in 埼玉

わけないでわけないで
あなたのついでにわけないで

日時:2025年

11月22日(土)、23日(日)

22日(土)(※12:00受付開始)

全体会:13:00~15:30

分科会:16:00~18:00

懇親会:18:30~20:00

23日(日)

分科会:9:00~10:45

全体会:11:15~12:30

会場:岩槻駅東口コミュニティセンター

大宮駅から普通11分、急行8分

東武アーバンパークライン岩槻駅徒歩1分

連絡・問い合わせ先

Email: donokomo1987@yahoo.co.jp

090-4938-8689(大坂)/048-942-7543(竹迫)

主催:障害児を普通学校へ・全国連絡会

障害児を普通学校へ・全国連絡会 全国交流集会 in 埼玉実行委員会

共催:埼玉障害者市民ネットワーク/(一社)埼玉障害者自立生活協会/埼玉高等学校教職員組合/埼玉教職員組合/埼玉教育労働者組合/みんな一緒に・埼玉連絡会/どの子も地域の公立高校へ・埼玉連絡会

後援:日本教職員組合/埼玉県/埼玉県教育委員会/さいたま市/さいたま市教育委員会/

DPI 日本会議/ピープルファーストジャパン/全国公的介護保障要求者組合

協賛:坂戸たけとんぼの会/共育(ともい)の会/NPO法人のらんど/埼玉県移送サービスネットワーク/TOKO/さやまのペンギン村/誰もが共に生きる地域をめざすペンギン村/キャベツの会・新座共育研究会/地域活動支援センターめだか工房/NPO 法人とことこの家

さいたま 埼玉へのお誘い

資料代:2日参加 3,000円、1日のみ参加 2,000円
※会場参加とZOOM参加は同額になります。
※資料不要の介助者と高校生以下は無料です。

34才でセーラー服を着た私

実行委員長 野島久美子

私は小さいころは養護学校だったけどつまらなかった。自分が出せなくて泣いてばかりいて、朝同じ時間にげろ吐いていました。原因はわからないけど、高等部卒業してピタッと止まりました。施設に入って、今度は体が不安定になってきました。それでわらじの会に入って、たまたま東武電車のエレベーターを作る運動に参加して、その時に原みっちゃんという子と出会い、本当に重度障害者で、こんな子をなんで普通学級にいさせるんだと思いました。家出して一人暮らしをするようになって、猪瀬良太くんたちが地域の高校に行きたいと何度も受検したんだけど入れなくて、社会人の障害者が県立高校受検したらどうかという話が出てきて、じゃあ私も入るって10人ぐらいで受検しました。与野高校を受検した私と武内もとみちゃんがダメで、私は2年目に合格しました。

そういうことがあって、でもわたしは大人になって普通学級(高校)に入って楽しかったです。はじめて持った定期券で通学したのがすごくうれしかった。テストがあって0点を初めてもらった。養護学校は勉強できなくても点はくれるから、これが0点だって初めて知りました。通信簿だってきれいに1が並んでいました。1年留年したけど卒業しました。ぜひ埼玉に来て、皆さんの体験も聞かせてください。

全体会の案内 13:00~15:30

シンポジウム「出会えないのはなぜ？」

駅にエレベーターも付いたし、介助の制度もだんだんとできているし…その割には街中に障害者がいないし、職場で働く障害者も限られているし、特別支援教育に進む子どもがとて増えている。これが共生社会？このまま分け続けられるのか？やっぱり一緒にいい！変えていこうよ！まずは「出会えないのはなぜ？」と、これまでや現状を掘り下げてみます。

ファシリテーター 小国喜弘さん(東京大学大学院教育学研究科所属バリアフリー教育開発研究センター) インクルーシブ教育の実現に向けて各方面で講演、提言を行っている。

木村俊彦さん(新座市) 元養護学校教員、元市議。キャベツの会を結成。地域福祉と共に、就学問題に取り組む。

シンポジスト

石川享助さん(小川町) 元小学校教員、埼玉教組。埼玉人教代表として人権・同和教育を進めてきた。

三井絹子さん(国立市) かたつむりの会。全国介護保障要求者組合で文科省交渉に取り組んでいる

野島久美子さん(春日部市) 埼玉障害者市民ネットワーク代表。武里団地暮らし、自立生活40周年を祝った。

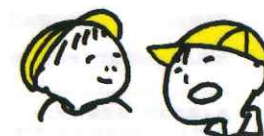
山下浩志さん(越谷市) 1970年代に「わらじの会」が発足。現在は「せ一緒」で職場参加に取り組む。

分科会の案内 (1日目 16:00~18:00、2日目 9:00~10:45)

第1分科会…まずは保育園、幼稚園、学校で会いましょう

就学相談やその手続きなどにおいて、共に学ぶための、行政を動かした先進的な取り組みや、実際に保育園や学校にお子さんを通わせている保護者の方からの話を伺います。みんなと一緒ににわくわくして同じ社会の入り口でスタートするために。

埼玉の新座市や大阪の就学の取り組み、千葉からは保育制度を変えた取り組み、北海道からは特別支援学級から普通学級に転籍して学んでいる報告があります。



第2分科会…みんなが居られる学校とは

共に学び遊んでいく中で、わかりあえない時や間違えたり失敗することがあっても、そして時には不登校になっても、大丈夫な学校にしようよ。不登校や特別支援学校で学んだ体験を交えて分離教育の問題を考え、地域の学校を変えるために知恵を出し合ひましょう。

不登校体験からの公教育に対する疑問、当事者の大学院生からは、高校からは特別支援学校へ行かされた体験からの分離教育の歪みについて聞きます。さらに、さまざまな子どもたちが互いに気づき合うクラスづくりに取り組む実践報告があります。

第3分科会…「合理的配慮」を問い直す

文科省が「支援」と言い換えている「合理的配慮」って何？要はどんな人も同じ社会で暮らそう、そのために必要なことは手助けし保障しましょうってこと？合理的配慮が必要ない世になればいい？エッ？ちょっと違うと思う？そんなことを掘り下げましょう！

34才の女子高生が通学することで学校や街が変わっていった報告や、「全身性介助人派遣事業」を利用した学校生活の報告、また、小学校教員(東京都)の立場から合理的配慮についてどう考えるかを聞きます。障害者権利条約における合理的配慮を再確認します。

第4分科会…“共に学ぶ”と“共に働く”の間を考える

地域で共に学んだ延長で、地域で共に働くことはできないのか？養護学校義務化前は、特殊教育卒業生も今より共に働いていた。養護学校義務化後、高等部に皆行き、地域が遠くなった。法定雇用率は上がるけど、学校で増産された「障害者」を賄いきれず、特例子会社、代行会社が拡大、「働く」の分離が進んでいる。雇用促進法は地域の大多数の小・零細企業を応援できていない。「共に働く」が進まないのは共に学べていないから？

卒後を語るときあまり語られていない「共に働く」を取り上げます。通常学級で学び地域のつながりを作り育てながら就労し働き続けている報告や、共に学んだ経験がなくまずは職場に入ってから働き始める地域とのつながりを作っていく職場参加の取り組みの報告、経営者側から発言などがあります